

都民の8割が東京定住を希望

—「都民生活に関する世論調査」から東京の魅力を再確認—

ところで、若い世代はなぜ東京圏に上京してくるのでしょうか。またなぜ故郷に帰えず東京に住み続けるのでしょうか。その件について分析したアンケート集計を下記にご紹介し、検討してみることに致しましょう。

東京都が2014年11月に発表した「都民生活に関する世論調査」で、東京定住意向（東京に今後ずっと住みたいと思う？）の割合が、2005年度の約7割から10年近くの間で約8割迄上昇する結果となりました。この傾向は持家派・借家派共にあるもので、その理由の内容としては、文化施設・アミューズメント施設・教育に関する施設そしてそれら各施設に対する交通網が充実していることが大きな要因となっている様ですが、もう一つ重要な要素として、「仕事を見つけやすい・事業を起業しやすい」ということが上げられることでしょう。

我々が住む「江戸川区」は、都心4区（ビジネス・学校ゾーン等）へのアクセスが30分前後という立地にあり、23区中「公園面積がNo.1」であり、子育て世代に対する助成システムも充実していることで、少子高齢化時代にもかかわらず出生率や人口増加なども順調に推移しているのが現実であり、将来に向けても安定的に街としての成長が見込めるところではありますが、自分達のエリアが良ければ、日本の他のエリアがどんどん衰退していつてしまってもいいのか？という問題になる訳です。

政府や地方自治体が一体となって、効率的な地方創生が急務となっていることを改めて確認し、バランスのとれた地方創生がこれからのグローバルな日本再生へとつながっていくのではないかと切に思っている次第です。

